

## 2012年度業務計画書(案)

### I. 業務の内容

#### 1. 業務の題目

「科学リテラシーの向上に関する実践的研究」

#### 2. 担当フェロー

星 元紀 東京工業大学名誉教授(放送大学客員教授)

#### 3. 業務の目的(2年間)

国民の科学リテラシーの向上、すなわち「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書(2008, 科学技術振興調整費「科学技術の智プロジェクト」)の基本的な考え方を踏まえ、「21世紀を心豊かに生きるにあたり、『持続可能な民主的社会』を構築するために万人が共有してほしい」科学リテラシーの向上を図るために必要となる具体的施策の基盤を形成することを目的とする。このために、「国民の科学リテラシーの向上に関する調査・研究」および「生活の中のリスクにかかわる科学リテラシーの向上に関する調査・研究」を次の基本方針に沿って行う。

#### 基本方針

学校教育の枠を超えて生涯学習として位置づける

既存組織の自立的な活動を促す(教員をはじめ、各方面からの積極的な提案を求める)

科学の暫定性、不確実性、答えのない問題への対処につき特に配慮する

#### 1) 国民の科学リテラシーの向上に関する調査・研究

##### i. ベンチマークを設定する(知識よりは、考える力を重視する)

例)

身につけるべき「基礎的知識」の目標水準

18歳人口の殆どが高校を卒業している、言い換えれば次代成人の殆どはこのレベルにあるので、現在の高校卒業レベルの知識水準を共有できるようにする。しかし、高校卒業レベルといっても現状では大きな幅があるので、高校卒業資格は本来どのレベルであるべきかをPISA等のデータに基づき検討する。

身につけるべき「考える力」の目標水準

科学の暫定性や不確実性をも理解したうえで、地球市民として日常的に要求される科学や技術にかかわる判断を行うために、集めるべき情報の質と量、ならびにその情報から結論を導く基本的な手立てを身につけるとともに、現実の動きに対応してその結論を常に検証し直せる能力をもつ。

##### ii. ロードマップを作成する(2030年までに目標水準を達成するための推進計画)

###### a) 2015年までに具体的な施策を策定するためのロードマップ

###### b) その施策に基づき2030年目標を達成するためのロードマップ

(施策の例)

検定試験の設置 (具体案は別のプロジェクトを立ち上げて作成・実施)

教材開発

勉強会等支援のための事業

##### iii. 「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書の内容を広く普及させるための方策を考案し、試験的な実施を試みる。

#### 2) 生活の中のリスクにかかわる科学リテラシーの向上に関する調査・研究

##### i. 生活の中のリスクにかかわる科学リテラシーの向上

最近、特に問題となっている生活の中のリスクにかかわる科学リテラシーを、リスク教育及び消費者教育との接続という観点からとらえ、その向上には何をすべきか、何ができるか、何処とどのように協力すべきかなどを具体的に考え、試験的な実施を試みる。

例)

国民生活センターの講演会を通じた展開  
教材開発  
サイエンスチャンネルによる発信

4. 当該年度における成果の目標及び業務の方法

i. プロジェクトの総合推進

国民の科学リテラシー向上に関する目標水準策定のための調査・検討を行う。

2030年までに目標を達成するための推進計画を検討する。

生活の中のリスクに関する科学リテラシー向上の方策に関する調査・検討を行う。

ii. 「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書の内容を広く普及させるための調査・検討を行う。

iii. フォーラム、検討会の実施

電子媒体によるフォーラムを設置し、メンバー間の日常定期的な情報交換の場とするとともに、検討会によって議論を深める。少なくとも初期の検討会はメンバー全員参加の合宿方式により、ブレインストームを行う。

また、必要に応じ、講師・情報提供者を適宜招聘する。

(参考) 2013年度

i. プロジェクトの総合推進

国民の科学リテラシー向上に関する目標水準の具体案を策定する。

2030年までに目標を達成するための推進計画を策定する。

生活の中のリスクに関する科学リテラシー向上の方策に関する具体案を策定する。

ii. 「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書の内容を広く普及させるための具体案を策定する。

iii. フォーラム、検討会の実施

前年度に引き続きフォーラム、検討会を討議の場として活用する。

iv. 2013年度末 調査結果の取り纏め

II. 業務の実施体制

業務項目	担当者	備考
① プロジェクトの総合推進	星 元紀フェロー	
② 「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書の内容を広く普及させるための調査・検討	星 元紀フェロー	
③ フォーラム、検討会の実施	星 元紀フェロー	
	北原和夫 科学コミュニケーション 研究主監	
	大橋理枝 放送大学准教授	共同研究者
	千葉和義 お茶の水女子大学教授	共同研究者
	長崎栄三 静岡大学教授	共同研究者
	奈良由美子 放送大学教授ほか	共同研究者